

## 九州地域における地域支援者と拠点病院・行政の連携、相互理解の推進

研究分担者

南 留美 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

共同研究者

首藤美奈子 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

大里 文誉 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

田邊 瑛美 福岡県 HIV 派遣ソーシャルワーカー

### 研究要旨

HIV 患者の長期療養に伴い地域における医療介護連携の必要性がより一層強まっている。本研究は、福岡県における地域支援者と拠点病院の連携、相互理解の推進のための HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制構築を目的とする。

今年度は 5 か所の各職能団体を訪問し HIV 診療の実状を理解いただいた。その結果、会員への HIV 啓発や理解促進のための機会を得ることが出来た。また HIV 陽性者支援実務者の連携強化のための「HIV サポーター連携カンファレンス」を開催し薬害患者を含めた HIV 陽性者の受け入れ促進のための課題（病院の相談窓口の明確化、血友病や薬害被害 HIV 患者の知識が習得できる研修内容、拠点病院と県行政との連携）を見出すことが出来た。今後は HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制構築のために、拠点病院と職能団体や行政、支援実務経験者、当事者団体等の関係者が話し合う体制を構築し連携を強化していく予定である。

HIV 陽性者が安心して利用できる「地域包括ケアシステム」の実現のためには地域における HIV 陽性者に対する理解とともに行政を含めた関係機関の連携が重要である。福岡における HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制の構築法は 1 つのモデルとなり得る。

### A. 研究目的

HIV 患者の長期療養に伴い、慢性期医療体制の構築、地域における医療介護連携の必要性がより一層強まっている。これまでにブロック拠点病院（九州医療センター）および中核拠点病院（産業医科大学病院）を中心に二次病院、療養施設、介護施設に対し患者受け入れ促進を目的として研修を行ってきた。その結果、受け入れは少しずつ増えてはいるものの、実際には様々な要因から未だに受け入れ拒否が続いている状況である。本研究は、医療連携をスムーズに進めるために、福岡県における医療介護福祉専門職や各事業所に向けた HIV の理解の促進、地

域支援者と拠点病院の連携、相互理解の推進のための HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制構築（福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク構想）を目的とする。

### B. 研究方法

#### 1) 医療介護福祉専門職や各事業所に向けた HIV の啓発

地域の支援施設や職能団体と直接あるいはオンラインで面談し、HIV 医療の現状の報告および HIV 患者受け入れのための協力を依頼し、連携をスムーズにするための助言をいただく。訪問する職能団体としては、以下を予定している。

福岡県社会福祉士会、福岡県精神保健福祉士協会、福岡県介護支援専門員協会、福岡県医療ソーシャルワーカー協会、福岡県介護福祉士会、福岡県医師会、福岡県看護協会、福岡県訪問看護ステーション連絡協議会、福岡県老人福祉施設協議会、福岡県介護老人保健施設協会福岡県社会福祉協議会

## 2) HIV 陽性者の支援実務経験者間連携

地域支援者は HIV への差別・偏見や風評被害を背景として、孤立した支援を行っている。

地域支援者、当事者団体、拠点病院が集まり、HIV に関する最新情報の提供や支援者同士の意見交換会を開催し受け入れ施設間での連携を構築する。

## 3) ネットワーク会議

拠点病院と職能団体や行政、支援実務経験者、当事者団体等の関係者が会し、専門職に向けた啓発やサービスの向上、受け入れ協力機関の拡充について協議する体制を構築する。

## C. 研究結果

### 1) 医療介護福祉施設や各事業所への HIV 啓発

今年度は福岡県社会福祉士会、福岡県精神保健福祉士協会、福岡県介護支援専門員協会、福岡県医

療ソーシャルワーカー協会、福岡県介護福祉士会の各職能団体を訪問した。会長や事務局長等と面し HIV の基礎知識、HIV 陽性者の動向や傾向、支援における課題等説明したのち、啓発への協力、ネットワークへの参加を依頼した。その結果、会員への HIV 啓発や理解促進のための機会を得ることが出来た（会員へのフライヤー（図1）の送付 4350 枚、各団体が開催する研修（福岡県精神科病院協会）や学会における HIV 関連の講演（福岡県介護学会）の機会の確保）。また、他団体（福岡県精神科病院協会、福岡市民間障がい施設協議会、福岡就労支援連絡会）や既存のネットワークへの展開について等、本研究の取り組みに関する助言をいただいた。

### 2) HIV 陽性者支援実務者の連携強化。

HIV 陽性者の支援経験を有する地域支援者同士の横の連携、薬害被害者の受け入れ促進、地域支援者と拠点病院との相互理解、連携の強化のために「第1回福岡県 HIV サポーター連携カンファレンス」をオンラインで開催した（図2）。17 事業所（訪問看護、訪問薬剤、ケアマネ、入所施設、デイサービス、拠点病院）から計 24 名が参加した。HIV に関する最

**HIV/AIDS** (ヒト免疫不全ウイルス)

このことを正しく知ってほしい。

福岡県内には HIV に罹患し、治療している人が約1000人います。HIV 感染症は慢性疾患となった現在、陽性者も静を重ね、中には医療・介護・福祉サービスを利用する方もいます。ところが、誤った知識や差別・偏見を背景に受け入れを断られ、希望されるサービスが受けられない事態が起きています。

**CASE 1** HIVの人は受け入れません。  
**Check!** HIVを理由とした受け入れ拒否は、**法律に違反する**場合があります。  
\*応召義務(医師法・歯科医師法)、  
不当な差別的取扱い及び合理的配慮  
(障害差別解消法)

**CASE 2** HIVの感染対策ができません。  
**Check!** 特別な感染対策は必要ありません。  
HIVは感染力が非常に弱いので、**日常生活や介護の場面で感染することはありません。**

皆さんの勤める施設・介護の現場にも、HIV 陽性者の受け入れの要請があるかもしれません。  
一人ひとりが、「HIV/エイズ」を正しく知ることから始めていきましょう。

**HIV/エイズ出前研修** 出張研修・オンライン研修の対応いたします。  
九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター  
対象…福岡県内の医療介護福祉機関  
内容…HIV 感染症に関する知識や感染対策、療養支援等  
講師…HIV 専門の医師・看護師・MSW 等

研修の申し込みは  
☎ 444 こちから  
九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター

HIV 陽性者を安心して受け入れるためには是非ご活用ください!

**HIV/エイズの基礎知識**

**エイズと HIV 感染**  
エイズは HIV (=ヒト免疫不全ウイルス) というウイルスに感染して起こる病気です。  
HIV に感染すると、徐々に免疫力 (病気に抵抗する力) が低下し、放っておくと約 10 年程でエイズを発症します。

**HIV に感染** 感染しても自覚症状がほとんどないで、HIV 抗体検査をして、初めて感染が分かります。

**急性症状** まれに風邪のような症状が出る人もいますが、無症状のこともあります。

**無症状の時期** 自覚症状はありませんが、少しずつ免疫力が落ちていきます。

**エイズの発症** 免疫力が更に低下すると、健康であれば何でもない弱い細菌やカビに感染したり、悪性腫瘍ができたります。この状態がエイズです。  
\*HIV=エイズではありません。

**早期発見、早期治療** でエイズの発病を防ぐことができます。

**HIV の治療** 「抗 HIV 薬」と呼ばれる薬を「毎日」服薬することで、ウイルスの増殖を抑えることができます。  
通院は 1~3 か月に一回程度です。「**確実な服薬**」と「**定期的な通院**」が重要です。

**こんなことでは感染しません**

咳・くしゃみ 握手・ハグ プールやお風呂 入浴介助 食事介助 便器の共用  
便器の共用 口内ケア

○食器・リネンの共用 ○蚊、ノミ等の昆虫、動物の感染 ※日常生活や介護の場面で感染することはありません。

**感染力は弱い**  
HIV は乾いたところや熱などに弱く、人の体の中に入らなければ生きていきません。  
通常の業務で行っている感染対策で十分です。

**特別な感染対策は必要ありません。**

**どのように HIV は感染するか**

性的接触  血液感染  母子感染 ※HIV は血液、精液、母乳に含まれます。

九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センターのホームページ  
九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センターのホームページで詳しい情報をご覧いただけます。  
九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター  
九州医療センター HIV 検索

QRコードは  
こちから

図 1

新情報の提供、地域での支援事例発表、意見交換、当事者支援団体・薬害被害者支援団体の講演を行った。

カンファレンス終了後のアンケート (n=17) (図3) では、参加者の93.8%が今回の研修が「仲間づくり」「拠点病院との連携強化」「地域支援者との連携強化」(重複含む) に役立つと考えており、支援者間連携を目的とした研修のニーズがあることが分かった。

また、地域支援者の92.3%が「困ったときの相談窓口の明確化」が役立つと回答しており HIV 陽性者の受け入れ促進に際し、病院の相談窓口の明確化が求められていることが分かった。HIV 陽性者の受け入れ促進に必要な取り組み(自由記述)として17名中10名が「正しい知識」「正しい情報」「疾患についての理解」というワードを記載、17名中8名が「研修」「啓蒙」「周知」というワードを記載していた。これ

**HIV陽性者支援の輪を一緒に作っていただけませんか？**  
**第1回福岡県HIVサポーター連携カンファレンスのご案内**

HIV陽性者の方を支援する中で、悩みや不安を抱えておられないか？  
 例えば、緊急時の対応や連携の難しさ、高齢化する利用者さんの療養の場所、終末期の服薬管理のことなど、「HIVだからこそ」の支援や連携の難しさを感じておられる方もいらっしゃるかもしれません。  
 実際にHIV陽性者を受けている事業所の方から、「HIVの利用者さんのプライバシーを考えると、同業者でもなかなか相談できない。HIVの方を支援している方と相談できる、繋がる場所がほしい」というお声も届いております。  
 そこで、HIV陽性者を支援する皆様の横がかりを作ること、皆様と福岡県内のエイズ治療拠点病院のHIV担当ソーシャルワーカーの顔の見える関係を作ることを目的として、当企画を開催いたします。  
 ご多忙中恐縮ですが、是非ともご参加いただき、皆様のお声をお聞かせいただけますと幸いです。

◆日時：令和5年 1月28日(土) 10:00~12:30  
 ◆対象：HIV陽性者の支援経験のある医療・介護・福祉従事者  
 ◆方法：TeamsによるWeb開催  
 ◆申込：1月20日(金)までに申し込みフォームにアクセスするか、裏面の申込書をFAXしていただきますようお願いいたします。  
 ※詳細は裏面をご参照ください。

《内容》  
 開会のあいさつ  
 10:00~ 講演 (HIV/エイズの最新情報、HIV陽性者の終末期支援等)  
 10:40~ 参加者自己紹介、活動報告、検討事項  
 11:40~ 当事者支援団体より (HIV陽性者支援、薬害被害HIV陽性者支援の立場から)  
 閉会のあいさつ

九州医療センター AIDS/HIV総合治療センター  
 キャラクター キクラー

【お問い合わせ】  
**九州医療センターAIDS/HIV総合治療センター**  
 TEL: 092-852-0700 (内線: 2501)  
 担当: 首藤、田邊

令和4年度厚生労働省行政推進調査事業費補助金(エイズ対策政策研究事業)

**第1回福岡県 HIV サポーター連携カンファレンス**

◇ 日時：令和5年 1月28日(土) 10:00~12:00  
 ◇ 形式：TeamsによるWeb開催

総会司会：産業医科大学病院 MSW 野田 雅美

— 開会の挨拶 —  
 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター 部長 南 留美

10:00~10:40 【講演】  
 講演1. HIV/AIDSの最新情報  
 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター 部長 南 留美  
 講演2. 「HIV陽性者の終末期支援」(仮)  
 訪問看護ステーション優風 長崎 美保氏  
 講演3. 「これまでの活動報告、HIV陽性者支援への思い」(仮)  
 訪問看護ステーションラポールほのぼの 新野 歩氏

10:40~11:40 【カンファレンス】  
 司会：九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター MSW 首藤 美奈子  
 1. 自己紹介・活動報告  
 2. エイズ診療拠点病院からの報告  
 3. 検討事項

11:40~12:00 【当事者支援団体より】  
 講演1. 「HIV陽性者の支援について」(仮)  
 Haco/NotAlone 福岡 灰 来人氏  
 講演2. 「薬害被害 HIV 陽性者の支援について」(仮)  
 社会福祉法人はばたき福祉事業団 柿沼 章子氏

— 閉会の挨拶 —  
 九州医療センター AIDS/HIV 総合治療センター 部長 南 留美

※当日の参加者数によって、各時間を調整させていただきますことをご了承ください。

図2

今回の研修がどんなことに役立つそうですか？ [n=17n=17 (地域支援者 13・拠点病院 4)、複数回答]



「第1回福岡県HIVサポーター連携カンファレンス」事後アンケート結果より抜粋

図3

らの取り組みを行う機関としては17名中16名が「行政機関」、10名が保健所、11名がエイズ拠点病院を挙げている。行政機関・保健所と拠点病院が協力し、地域啓発に取り組むことが望ましいと思われる。薬害被害 HIV 患者の支援に関しては17名中6例（地域支援者3名、拠点病院3名）が支援経験があった。薬害被害者を支援する上で17名中7名で懸念事項があり、その内訳としては血友病についての知識不足が最も多く、その他、現場職員の理解、薬害被害者のメンタルケア、利用できる制度についてが懸念事項として挙げられた。HIV 陽性者支援経験者対象の研修では、血友病や薬害被害 HIV 患者の知識が習得できる内容を盛り込むことで懸念事項の軽減・解消が期待できる。

### 3) ネットワーク会議

各職能団体、拠点病院等、関係機関にネットワーク会議参加を依頼している。会議は来年度以降の開催を目指している。

## D. 考察

九州医療センターでは、HIV 陽性者の受け入れ促進のために受け入れ施設を中心に個別に研修を行ってきた（出前研修+実地研修 計150回、受講者数のべ3438名）。その結果、受け入れ施設数も徐々に増加しある程度の成果を得ている一方、受け入れ拒否の事例も持続していた。

今回、各職能団体への訪問、面会を通して、地域支援者における HIV に対する理解が未だ不十分であることを実感した。今年度は、「職能団体」の協力により HIV に対する正しい知識の普及・啓発を効率良く行うことが出来た。来年度以降、今年度訪問できなかった職能団体を訪問し、さらに広範囲の地域支援者に HIV の啓発を行っていく予定である。また、地域支援者支援のために開催した「HIV サポーター連携カンファレンス」については、本カンファレンスによる地域支援者間の連携、地域支援者と拠点病院の連携が期待されていることが分かった。今年度はオンラインでの開催であったため支援者同士の連携強化に十分寄与することが出来なかったが、薬害患者を含めた HIV 陽性者の受け入れ促進のための課題（病院の相談窓口の明確化、血友病や薬害被害 HIV 患者の知識が習得できる研修内容、拠点病院と

県行政との連携）を見出すことが出来た。今回の結果を踏まえ、来年度以降は、対面での開催を検討している。

拠点病院と職能団体や行政、支援実務経験者、当事者団体等の関係者が話し合う「ネットワーク会議」は福岡県 HIV 陽性者地域支援ネットワーク構想の中核をなす。来年度以降の開催を目指している。

## E. 結論

HIV 陽性者が安心して利用できる「地域包括ケアシステム」の実現のためには地域における HIV 陽性者に対する理解とともに行政を含めた関係機関の連携が重要である。福岡における HIV 陽性者地域支援ネットワーク体制の構築法は1つのモデルとなり得る。

## F. 健康危険情報

なし

## G. 研究発表

### 1. 論文発表

なし

### 2. 学会発表

1. The association of HIV-1 subtypes and transmission clustering with late diagnosis: the first nationwide study in Japan; Machiko Otani, Teiichiro Shiino, Masako Nishizawa, Atsuko Hachiya, Hiroyuki Gatanaga, Dai Watanabe, Rumi Minami, Mayumi Imahashi, Kazuhisa Yoshimura, Wataru Sugiur<sup>3</sup>, Tetsuro Matano, Tadashi Kikuch: Japanese Drug Resistance HIV-1 Surveillance Network, AIDS 2022, 7.29-8. Montreal, Canada (web)
2. Assessment of the effectiveness, safety and tolerability of bictegravir/emtricitabine/tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in routine clinical practice: 12-month results of the retrospective patients in the BICSTaR Japan study; Tomoyuki Endo, Mayumi Imahashi, Dai Watanabe, Katsuji Teruya, Rumi Minami, Yasuko Watanabe, Andrea Marongiu, Tetsuya Tanikawa, Marion Heinzkill, Takuma Shirasaka, Yoshiyuki Yokomaku, Shinichi Oka: Asia-Pacific AIDS & Co-Infections Conference (APACC) 2022、2022年6月16-18日(web)
3. Assessment of the effectiveness, safety and tolerability of Bictegravir/Emtricitabine/

- Tenofovir alafenamide (B/F/TAF) in routine clinical practice: The 2nd analysis of 12-month results of the BICSTaR Japan study; Dai Watanabe, Katsuji Teruya, Yoshiyuki Yokomaku, Rumi Minami, Tomoyuki Endo, Yasuko Watanabe, Andrea Marongiu, Tetsuya Tanikawa, Marion Heinzkill, Takuma Shirasaka, Shinichi Oka: Korean AIDS Society 2022、2022年11月18日、韓国(ソウル)(web)
4. 大都市圏型の HIV 診療～センター病院の HIV 診療現場から; 南留美、第36回日本エイズ学会学術集会・総会 2022/11/18 2022/11/18-11/20
  5. HIV 感染者の早期発見に関するアンケート調査; 高濱 宗一郎、中嶋 恵理子、山地 由恵、犬丸 真司、長與 由紀子、城崎 真弓、南留美、山本 政弘: 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
  6. 当院における2剤療法の臨床的検討; 南留美、高濱 宗一郎、中嶋 恵理子、山地 由恵、犬丸 真司、長與 由紀子、城崎 真弓、山本 政弘: 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
  7. 当院における HIV 関連リンパ腫 27 例の後方視的検討; 中嶋 恵理子、高濱 宗一郎、山地 由恵、犬丸 真司、長與 由紀子、城崎 真弓、南留美、山本 政弘: 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
  8. タブレット版 HAND スクリーニング検査の妥当性と有用性; 坂本 麻衣子、中尾 綾、小山 璃久、鶴味 詢大、山之内 純、中田 浩智、松下 修三、南留美、山口 武彦: 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
  9. 2021年の国内新規診断未治療 HIV 感染者・AIDS 患者における薬剤耐性 HIV-1 の動向; 菊地 正、西澤 雅子、小島 潮子、大谷 眞智子、椎野 禎一郎、俣野 哲朗、佐藤 かおり、豊嶋 崇徳、伊藤 俊広、林田 庸総、瀧永 博之、岡 慎一、古賀 道子、長島 真美、貞升 健志、近藤 真規子、宇野 俊介、谷口 俊文、猪狩 英俊、寒川 整、中島 秀明、吉野 友祐、堀場 昌英、茂呂 寛、渡邊 珠代、蜂谷 敦子、今橋 真弓、松田 昌和、重見 麗、岡崎 玲子、岩谷 靖雅、横幕 能行、渡邊 大、阪野 文哉、森 治代、藤井 輝久、高田 清式、中村 麻子、南留美、山本 政弘、松下 修三、饒平 名聖、仲村 秀太、健山 正男、藤田 次郎、吉村 和久、杉浦 互: 第36回日本エイズ学会学術集会・総会、オンデマンド 2022/11/18-11/20
  10. 実臨床でのビクテグラビル/エムトリシタビン/テノホビルアラフェナミド (B/F/TAF) の有効性、安全性及び忍容性の評価; BICSTaR Japan の12ヵ月解析結果(2回目); 渡邊 大、照屋 勝治、横幕 能行、南留美、遠藤 知之、渡邊 泰子、Andrea Marongiu、谷川 哲也、Marion Heinzkill、白阪 琢磨、岡 慎一: 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 オンデマンド 2022/11/18-11/20
  11. ビクテグラビル開始に伴う精神神経系有害事象の発生状況調査と POMS を用いた検討; 藤田 清香、松永 真実、合原 嘉寿、大橋 邦央、花田 聖典、橋本 雅司、曾我 真千恵、中嶋 恵理子、高濱 宗一郎、南留美: 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 (ポスター) 2022/11/18-11/20
  12. インテグラーゼ阻害剤における精神神経系副作用の発現状況と POMS による調査; 松永 真実、合原 嘉寿、大橋 邦央、花田 聖典、橋本 雅司、曾我 真千恵、中嶋 恵理子、高濱 宗一郎、南留美: 第36回日本エイズ学会学術集会・総会 (ポスター) 2022/11/18-11/20
  13. 「HIV、エイズを正しく知ろう～安心してケアを提供するために～」。「HIV、エイズの基礎知識～医師の立場から～」南留美  
「HIV、エイズの患者を理解するために～社会福祉士の立場から～」 田邊 瑛美  
「HIV 利用者を支援してわかったこと～支援経験のある介護福祉士の立場から～」 福田 順子  
第21回福岡県介護学会 2023/3/11
- ## H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む)
1. 特許取得  
なし
  2. 実用新案登録  
なし
  3. その他  
なし